

「国際ロータリー 意義ある業績賞」

国際ロータリー 第 2550 地区 宇都宮北ロータリー・クラブ

会長 谷田部 峻

幹事 鈴木 宏

1. プロジェクト名 : 「寺子屋」を通して日本の伝統文化を学ぼう
2. 実施場所 : 宇都宮市今泉町 143 番地 6 錦地域コミュニティセンター
3. 実施日時 : 平成 15 年 11 月 8 日午後 1 時から 4 時まで
4. 社会貢献活動の主旨について :

①今回、私たちのクラブでは、クラブによる地域社会に対します「団体社会貢献活動」を実施するにあたり、社会奉仕委員会・職業奉仕委員会・国際奉仕委員会・新世代委員会の四つの奉仕委員会が協力し社会貢献活動の立案計画を立て実践を行うこととしました。

ひとつに、各奉仕委員会の活動内容のボーダーレス化が見られるようになってきております。

また、1927 年「オステンド国際大会」にて、4 大奉仕に分かれてましたが、社会貢献活動の実践が楽になった一方で、社会貢献活動の実践の前の「サービスの心」を磨く場が、会員間での共有が難しい状況になりつつあるように感じます。

そのため、ロータリー活動を「例会内活動」と「例会外活動」に分けて社会貢献活動について考え実行していくことにより、「社会貢献活動の実践」の前に、会員の「サービスの心」の研鑽の場が明瞭になると考えたためです。

②「地域社会のニーズ」を見つけるに当たっては、「地域社会のニーズを推測する」のではなく、「地域社会の人が必要だと感じるもの」を探すことに主眼をおき検討しました。

③昨今、社会問題ともなっております『青少年問題』が話題に上り、次世代を担う子供達が育っていくための「健全な地域社会」について討論されました。そして、子供達の健全な成長に地域社会として考えた場合、必要な物は「地域社会の伝統ともいえる文化」・「地域社会に生きる人達の心の絆」・「心

を捉える自然環境」の3点に絞られました。

④宇都宮北ロータリー・クラブとして、「地域社会の伝統文化」に着目し、地域社会の子供達と一緒に学んでいこうと決まりました。

⑤昨年度より、教育的には学校週5日制となりました。それに加えて、世代相応に当然求められるべき道徳律は崩壊しつつあります。日本の将来を考えますと、次代を担う子供達—特に小学生を対象にロータリアンとして何かできないものかと思案、休日になってしまった土曜日に小学生を集めて一緒に手作業をしながら、『寺子屋的手法』で、地域単位で集まるように声を掛け、「日本の伝統的な工芸品」を私たちロータリアンと子供達の家族と共同で制作することにより「家族と地域社会の連帯感」を生み出し、「地域社会に生きる人達の心の絆」を強くしたいと願い本社会貢献活動を実施すべく活動を始めました。

5. 本奉仕活動プロジェクトの立案・計画について :

①職業奉仕委員会として :

1987年の『職業奉仕に関する声明』で、「クラブの役割は、たびたび職業奉仕を実践してみせることにより」と書かれておりますが、ロータリアンは職業奉仕を実践することは出来ても、職業を持たないクラブは職業奉仕を実践して見せることは出来ないと思います。

しかし、1989年の『職業宣言』は、『ロータリー職業倫理訓』が与えるほどのインパクトもなく、きわめて抽象的な表現の文ですが、「自己の職業上の手腕を捧げて、青少年に機会を開き、他人からの、格別の要請にも応え、地域社会の生活の質を高めよ。」と謳っています。

休日になってしまった土曜日に小学生を集めて一緒に手作業をし、「寺子屋的手法」で『四つのテスト』の考え方を分かり易く教えながら、最後に「四つのテスト」の名刺判のカード(資料参照)を配布し「四つのテスト」について啓蒙していくことにより、職業奉仕の考えを少しでも理解してもらえるように努力する。

②国際奉仕委員会として :

一年交換留学生を招待する。

ロータリー財団委員会と協力し、資金源として「地区補助金」を申請する。

米山記念奨学委員会は、ロータリー家族委員会と協力し、米山奨学生を招

待する。

- ③また、ロータリー家族委員会に、会員家族の参加をお願いする。
- ④広報委員会に、本奉仕活動がロータリー提唱プロジェクトであることを下野新聞社等に事前に広報し、取材に来てもらう。(資料参照)
- ⑤会報委員会・CICO委員会には、クラブ内広報をお願いする。
- ⑥ニコニコ箱委員会には、本奉仕活動資金を集めるように、例会にて本奉仕活動への協力を呼び掛けてもらう。
- ⑦本年度の「寺子屋」シリーズの内容は、「竹細工」(平成15年11月8日実施)「ふくべ作り」(平成16年4月24日予定)と決定。

以上、立案・計画後、クラブ理事会に諮り、承認を受けました。

6. 社会貢献活動(平成15年11月8日実施)の報告:

a. 地域社会への影響について:

①ロータリアン以外でこのプロジェクトの恩恵を受けた数:43人

②この人達に、どのように役立ちましたか:

将来を担う子供達と親が、教育的に週5日制となり休日となった土曜日に、地域単位で集まり、日本に古くから伝わります伝統的な竹細工の技能を学び、共同で行うことにより、家族・地域の連帯感が生まれました。

また、「キット製品」と違い、失敗しても修繕の仕方を皆で考え、物を大切に作る心を育みました。

③このプロジェクトのおかげで、地域社会の人々は、自立に役立つどのような具体的技能や知識を身につけましたか:

「四つのテスト」を参加者全員で唱和し、「竹細工」の共同作業の中で、地域の人々との係わり合いが如何に大切なものであるか、自覚できるように配慮しました。

日本の伝統的「竹細工」を若い世代に伝えることが出来ました。

また、竹の柔軟さを利用した「竹細工」は、中々難しく、じっくりと作業

に集中しませんと先へは進めません。子供達にとって、集中力を持続することを学ぶことが出来たと思います。

最後に、参加者全員で清掃をしました。

④協力団体は、どのような役割ですか：

今回は、宇都宮市の錦地域コミュニティセンターにて開催いたしました。宇都宮市からの会場提供・清掃用具提供・参加者募集について好意的な協力を得ることが出来ました。

b. ロータリアンの参加について：

①本プロジェクトに参加した会員：55名 当日参加者は、32名

②会員の参加形態：

「クラブ・フォーラム」にて、本奉仕活動について話し合い。各会員は、各委員会・合同委員会にての立案・計画に参加しました。

社会奉仕委員会・新世代委員会は、参加者募集に関して、各小学校を訪問しました。実施日には、会場設営・会場案内誘導・「四つのテスト」の唱和及び分かり易い説明・子供達に作業内容の伝達・作業中及び作業後の清掃をしました。

c. 社会貢献活動の支出について：

竹細工材料費	1.000円×75名	75.000円
工具代		29.500円
おやつ・飲料水代		40.000円
傷害保険費		1.000円

合計 145.500円

7. 社会貢献活動プロジェクトの今後：

本プロジェクトは、2002-2003年度より、開始されました。あくまでも会員が、「サービスの理念」を学ぶ場としてのプロジェクトです。

毎年、前期・後期に分けて2回の「寺子屋」を実施しております。

- ・第1回「寺子屋を通して職業奉仕－日本の伝統的螺鈿に挑戦」平成14年7月13日
- ・第2回寺子屋シリーズ「連風を作って、みんなで揚げよう」平成15年2月22日

- ・第3回寺子屋シリーズ「日本の伝統文化ー竹細工に挑戦」平成15年11月8日
- ・第4回寺子屋シリーズ「日本の伝統文化ーふくべ作りに挑戦」平成16年4月24日

これからは、地域社会のボランティアの参加を増やし、「日本の伝統文化」の地域社会への継承・普及の大切さを理解していただき、この事業に対しますNPOの設立を目指していきたいと思っております。

その時に、当クラブは「本社会貢献活動プロジェクト」を終了したいと思っております。

8. 社会貢献活動プロジェクトの写真：

第3回寺子屋シリーズ「日本の伝統文化ー竹細工に挑戦」平成15年11月8日





第1回「寺子屋を通して職業奉仕—日本の伝統的螺鈿に挑戦」平成14年7月13日



第2回寺子屋シリーズ「連凧を作って、みんなで揚げよう」平成15年2月22日





9. 下野新聞の掲載記事：

平成 14 年 7 月 17 日下野新聞朝刊

町の鉦地域コミュニティ
【宇都宮】宇都宮北口
一タリークラブ（新妻健
一会長）は十三日、今泉
センターで「日本の伝統
工芸に挑戦」と題した教
室を開いた。地域の子
供たち十五人が、貝を使
った工芸品作りに挑んだ。
教室は、コミュニティ

貝の工芸品作り挑戦
宇都宮 子供を対象に教室

センターで毎月開いてい
る「ふるさと教室」の一
環。同ロータリークラブ
が企画し、鶴田町の漆工
芸家、宮原隆昌さんが講
師を務めた。
子供たちは黒いアクリ
ル板の上に、光によって
色が変わる貝を並べ、
思い思いの絵を描いた。

竹くしを手に作業する子供たち




○：五年生の浅野まどかさん（こ）は「たこを作ったのは初めて」と満足した様子だった。

○：宇都宮市今泉町の同市錦地区コミュニティセンターで開かれた寺子屋塾には、錦小の児童ら約三十人が参加。連日作りの愛好家、塚原三夫さん（同市清原四丁目）が、たこを支える竹ひごの付け方やひもの結び方を実演した。

談話室

○：宇都宮北ロータリークラブは二十二日、「寺子

10. 資料 :




四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか？
2. みんなに公平か？
3. 好意と友情を深めるか？
4. みんなのためになるかどうか？

宇都宮北ロータリークラブ



Utsunomiya
North Japan

文責：鈴木宏